

## 第7回 英語で読書に挑戦編（後編）

前回は英語での読書を始めるにあたって絵本やグラフィックノベルを紹介しました。でも、読書家のみなさんの中には絵ばかりだと物足りない、ガッツリ文章を読みたいという方がいるかもしれません。そこで今回は文章多めの本を紹介します。（編集委員 鶴飼 信）

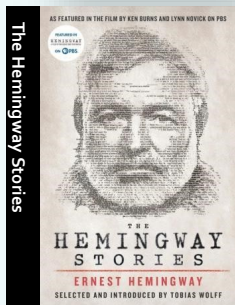
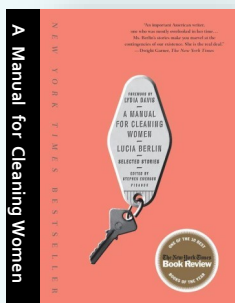
## ➤ まずは短編から

日本語でもそうですが、長い話を読むのは骨が折れますし、何よりも時間がかかります。英語だとなおさらで、ある程度読書を重ねてきた私でも長編を1冊読もうとすると土曜の朝から読み始めて日曜の夕方までかかったりします。分厚い本になると長期休暇にならないと読めなかったりします。ということで自然と目が向くのが短編集です。

ただ、短編と言っても様々です。数ページしかない本当に短い作品もあれば、100ページ近くで中編と呼ぶべき作品が含まれている場合もあります。できるだけ短い作品を読みたい場合、購入する前に目次で各話のページ数を確認してもいいでしょう。また連作短編のような続き物でない場合、ページ数の短い作品から順番に読んでいくという手もあります。

文学好きの方にオススメしたいのは、最近日本でも評価の高まっているLucia Berlinの『A Manual for Cleaning Women』です。400ページほどの中に43話が詰まっておりますので、空いている時間を見つけて挑戦することができます。個人的に最も印象に残っているのは『Mourning』という短編で、たった6ページなのですが不思議な余韻があって、読み終えた後も折に触れて思い出されます。

とはいえ、「文学好きにオススメ」と書いたように、エンタメ作品ではないので楽しいお話を期待していると裏切られます。薬物依存や中絶など、重たいテーマが繰り返し登場するので、慣れていないとちょっと疲れます。同じく文学好きの方向けだとノーベル賞作家Hemingwayの短編集なども挑戦しがいがあります。

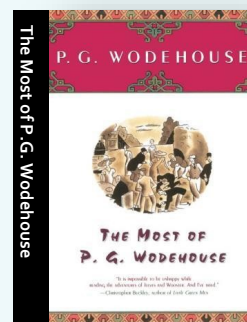


## ➤ 笑いを求める貴方には

逆に文学みたいな堅苦しいのはイヤで、楽しいお話を読みたいという人にオススメなのがP. G. Wodehouseの作品です。名前を聞いてもピンとくる方は少ないと思いますが、実は上皇后さまが2018年の誕生日（当時は皇后さま）のお言葉の中で退位後に読んでみたい本として挙げたのがこのP. G. Wodehouseのジューズシリーズなのです。弊誌でも過去に『私の本棚』でチラッと言及したことがあったります。（2021年7月号）

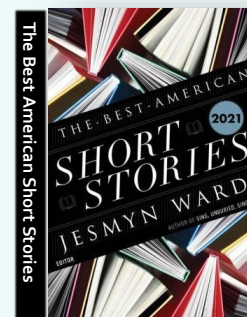
このWodehouse、上皇后さまのお言葉にあったジューズもの以外にも様々な作品を書いており、私が密かに注目しているのがMr. Mullinerシリーズです。このシリーズではバー“Anglers Rest”に集まったお客たちが世間話をする中、客の一人Mulliner氏が自分の親族の身に起きた出来事を語るというパターンが出来上がっ

ているのですが、その話というのが「卵を抱えた雌鶏のモノマネしか芸のない男の一発逆転劇」であったり、「傷んで家に帰ってきたら強盗が居座って飲み食いしてた」というラピュタの超展開だったり、いずれも実にバカバカしいお話が満載で気軽に読んで楽しむことができます。但し、Wodehouseは1881年生まれて作品も20世紀初頭を舞台にしたものが多いため、現代では聞き慣れない言葉遣いもちょろちょろと出てくる点は注意が必要です。



## ➤ どの作者がいいかわからないときは

しかし短編を読むにしても、自分の好きな作者が分かっていないと本を選ぶのは難しいですね。うっかり自分と趣味の合わない人の作品集を買ってしまったらすると、どの話も全く面白くないということになりかねません。そんな場合には複数の作者の作品を集めたアンソロジーを選ぶという手もあります。やはり文学好き向けにはなりますが、毎年発売されている『The Best American Short Stories』では前年に発表された選りすぐりの短編が収録されており、自分に合った作品を探すのに向いています。このシリーズには他にもSFやミステリー、紀行文、エッセイなどがありますので、好きなジャンルを選んでみるといいでしょう。



## ➤ 英語作品を読む上での心構えは

ここまで様々な短編集を紹介しましたが、大事なのはあまり頑張ろうとしないことです。私たちは中学や高校の英語の授業を思い出して、ついつい一行一行、きっちりと訳していかないとイケないような気持ちになりがちですが、小説というのはもともと、そんなに根を詰めて読むようなものではありません。分らなければ飛ばしてしまえばいいのです。半分どころか、二割ほど分かれればそれで十分だと思しましょう。

思い出してください。私たちが子供の時も実はそうやって本を読んでいたのです。分からない言葉があったら何だろうと思いつつ、先を読み進めるうちに何となく分かってくる。それを繰り返しているうちに、だんだん分かる範囲が増えてくる。それが読書の楽しみで、最初から100%を目指してはいけません。疲れてイヤになってしまいます。

ということで、本を読むのが好きな人は是非、英語の本にもチャレンジしてみてください。今回紹介した作品がみなさんの新しい読書体験のサポートになれば幸いです。